



令和7年度

鳥栖地区



No.148

まちづくり通信



令和7年9月1日発行

1.鳥栖空襲の話(於藤木町藤寿会誕生会)



藤木町

8月6日藤木町公民館に31名が参加され開催。その中で「鳥栖空襲」について藤木町で空襲を体験された方の話がありました。今年は「戦後80年」の節目の年でもあり、体験談を紹介します。

【鳥栖空襲とは】資料「鳥栖市誌」等より徳淵藤寿会会長が編集された「第二次世界大戦の記憶」から抜粋。

昭和20年8月11日10時30分から11時20分にかけて、鳥栖町(特に藤木町)が爆撃機による爆弾と機銃掃射の空襲を受け、119名(藤木町38名、東町9名他)が死亡。民家36戸、神社・寺3棟、銀行1棟、工場等全壊若しくは焼失。当時の鳥栖町は鉄道輸送の要であり、軍需工場があったほか、高射砲陣地等の軍事基地があり、アメリカ軍の軍事目標となった。

【体験者のお話】当日は代読も含め6名の体験談が語られました。紙面の都合で2名の方の体験談を失礼ながら抜粋して紹介します。

私は当時14歳で学徒動員として久留米の日華ゴム会社で軍服のボタン付けに励んでいるとき、空襲警報で防空壕へ避難致しました。壕から出てみると久留米の町は火の海、市内の女子学生は泣き叫び、非常なものでした。我が家へ帰りつければ、たて様のない地獄の有様。我が家は爆風で傾き、前の家は全壊し、西の御寺も全壊し、3名が死亡され、東隣の四男(5歳)は腸が出たのを手で受け止め壕の中で苦しんでいました。それを見た父親がたまらず「自分の手でいっそ」と苦悩されましたが、私の父と姉が必死に止めました。今でもローソクの灯りに映し出された5歳児のうす紫色の顔を忘れることは出来ません。その子はいく朝亡くなりました。戦争は弱い者、女性・子供が一番最初に犠牲になります。戦争は絶対にしてはいけません。(福島ツル子さん)

私は15歳で久留米の工場で働いていて、お昼前空襲警報で防空壕へ走って入りました。なんとか藤木へ帰り着くと家は建っていたけれど、屋根は傾き、建具は一枚も無い状態でした。小屋は倒れ、馬の横腹には爆弾の破片が突き刺さり、息をする度にプシュプシュと音がして一晩中苦しんで翌日死にました。一番仲よかった友達の妹は一度は防空壕に入ったけれど、爆撃が酷くなり、お母さんが家に布団を取りに行き、それに子供三人が後追いついて家に行ったところに直撃弾を受け、母子四人即死でした。その四日後に終戦になり、負けたけどホッとしました。戦争だけは絶対にしないで、今の平和を守って下さい。(松雪ハルエさん)

2.鳥栖地区各団体の活動

一緒にいかがですか?

スポーツ協会

鳥栖地区「グラウンド・ゴルフ大会」と「ラージボール卓球大会」



7月26日鳥栖小学校グラウンドで30名の方が参加されて開催。暑い中でしたので事務局のプレーファーストでの運営と皆さんの協力で多少涼しいうちに大会は終了しました。今回初めて参加した方もいらっしゃいましたが「とても楽しかった!!」と仰っていました。



8月2日鳥栖市民体育館諸室で36名の方が参加されて開催。8チームによるリーグ戦でこの日多い方は10試合以上試合をされました。尚、今回の大会参加者の最高齢は「95才」。ラージボール卓球はいくつになっても楽しめるスポーツです。



3.鳥栖地区各町区の活動

昨年の高田町・安楽寺町に引き続き、今年から今泉町でも夏まつりが再開!! 残念ながら悪天候の為に中止や公民館での開催もありましたが、委員さんたちの大変な尽力により各町区ともコロナ前の賑わいが戻ってきました。



8月9日轟木町

櫓まで組んで、準備されていましたが、残念ながら雨天中止



8月10日藤木町

公民館で開催。雨にも負けず最後はカラオケで大盛り上がり



8月10日真木町

公民館で開催。出店やくじ引き等の縁日タイムを満喫



8月16日今泉町

今年から再開。子どもたちの楽しそうな笑顔が最高

高田町 高田町老松宮清掃



7月27日 高田町老松宮の木々の剪定作業が役員の皆さんで行われました。7時からとはいえ、既に猛暑中、高所作業車や脚立等を使い、作業され、3時間ほどで老松宮はとても綺麗になりました。

藤木町 夏越し願成就と茅の輪くぐり



7月27日せみ時雨が響き渡る藤木町宝満神社で執り行われました。朝から町の役員さんが子どもたちと一緒に茅の輪を作り、その後の願成就の神事にも子どもたちが参加しました。最後に全員で作った茅の輪を「8の字に8回くぐり」この夏の無病息災を祈願されました。

元町 老人クラブ元町会上期誕生会



7月30日元町公民館で30名の方が参加されて開催。最初に鳥栖市高齢福祉課から「延ばそう! 健康寿命」というテーマで講話を聞き、その後上期誕生者17名のご紹介からプレゼントの贈呈。最後にお弁当を食べながら、楽しい歓談のひと時を過ごしました。

元町 げんきかい



8月7日元町公民館で子どもたち9名と役員さんとげんきかいの会員さん計8名が参加して開催。みんなで一緒に大きな七夕飾りと自分用の小さい七夕飾りを作りました。「コロナ明け2回目の開催で昨年より子ども達も増え、みんな楽しそうだった」と川崎区長も仰っていました。

4.鳥栖地区からのお知らせ

■9月1日は『防災の日』■

回覧

～防災週間に考える～

防災講習

●災害に備えて知っておいた方がよいことや心構え、自宅で作れる避難生活の工夫など学びませんか?



日時: 9月1日(月) 8:50~12:00

場所: 1部 九州セキスイハイム工業株式会社(轟木町)
2部 鳥栖まちづくり推進センター(集会場)

定員: 30名

■1部■ ～震度7を体感しましょう!!～

阪神淡路大震災や東日本大震災の揺れを体験装置にて実際に体感

8:50 鳥栖まちづくり推進センター集合
9:00 バスにて九州セキスイハイム工業へ
9:15 地震体験装置による「震度7」体験
9:45 九州セキスイハイム工業発
9:55 鳥栖まちづくり推進センター着



■2部■ ～水害への備えについて～

水害に備える防災講習会を開催! 事前対策で安心を

10:00 日本赤十字社による
講習会
12:00 終了(予定)



【申込先】

7月末に回覧板で募集をしましたが、まだ、若干空きがあります。防災の日と一緒に学びましょう。

皆さんのご参加お待ちしております。申込は鳥栖まちづくり推進センター(☎0942-83-1686)までお願いします。

【防災の日とは】

1923年9月1日に発生した関東大震災にちなんだもので、従来から9月1日付近は、台風の襲来が多いとされる二百十日にもあたり、「災害への備えを怠らないように」との戒めも込められているそうです。

また、その前後の8月30日から9月5日を「全国的な防災普及行事の展開」のために「防災週間」とされています。

【防災講習 開催】

そこで、鳥栖地区社会福祉協議会では「防災の日」に合わせて、～防災週間に考える～『防災講習』を開催します。

【防災講習 内容】

1部 体験 ～震度7を体感しましょう!!～

九州セキスイハイム工業(轟木町)に協力頂き、地震体感装置で、熊本地震等最近起こった「地震の揺れ」を体感しましょう。揺れを体感すると「備えないといけない」ときっと思うはずです。

2部 講座 ～水害への備えについて～

日本赤十字社をお招きし、ご講話頂きます。いつ豪雨が降ってもおかしくない昨今です。講話を聞いて皆さんの家でも水害に備えましょう。



お問合せ

詳しくはインターネットで 鳥栖地区まちづくり推進協議会

検索



鳥栖地区まちづくり推進協議会事務局 (鳥栖まちづくり推進センター内) ☎0942 (83) 1686